

デジタル技工における口腔内組織と調和した歯冠修復装置

近年、歯科分野においても急速にデジタル技術の導入（IT化）が進められてきました。クリニックサイドでは、セファログラム（頭部X線規格写真）P-A（頭部後前方向撮影）を始めCT（コンピュータ断層撮影）が、当たり前のように日常臨床に取り入れられてきた。また、ラボサイドにおいても、CAD/CAMが導入されたことで歯冠修復装置の製作工程が従来の工程と比べて大きく変化した。このような状況において私たち歯科技工士は、歯冠修復装置の精度の向上、製作時間の短縮、CAD/CAM機器や材料等のコストを明確にし日々の臨床に取り組むことが求められる。

歯冠修復装置の精度の向上については、従来の製作方法である間接法では、印象材、石膏、咬合器装置、ワックスアップ、埋没、鋳造といった各ステップでどうしても回避出来ない変形が起こったり、硬化時間を必要とする為に製作にかなりの時間が必要とされたが、このことに関しては、デジタル化によってかなり回避出来る。

また、クリニックサイドでのデジタル化によって、診査、診断時においても3D画像が見られることで、より正確な口腔内の状況の把握や治療後の経過状況も明確に観察できることで治療の向上に繋がっている。本講演では、歯科医院から送られてくるデジタル資料や製作するためのデータを活用して、顔貌との調和、咬合面形態の付与、歯周組織との調和を考慮した歯冠修復物の作製に付いて提示致します。

略歴

櫻井靖之

1983年 新大阪歯科技工士専門学校 卒業
1983年 本多歯科医院 勤務
1984年 木原歯科医院 勤務
1990年 有限会社ファイン 設立
2007年 株式会社ファインロジック 設立
2016年 ファインホールディングス代表

大阪大学歯学部附属技工科 非常勤講師
新大阪歯科技工士専門学校 非常勤講師
日本口腔インプラント学会 認定歯科技工士